

シアター & ポリシー
通巻 34号
2005年12月20日発行

編集・発行人
中山夏織

特定非営利活動法人
シアタープランニングネットワーク
〒182-0003
東京都調布市若葉町1-33-43-202
Phone & fax 03-5384-8715
e-mail tpn1@msb.biglobe.ne.jp
http://www5a.biglobe.ne.jp/~tpn/

Theatre & Policy

第34号

2004年6月、スコットランド第4の都市とはいえ、人口15万人に過ぎないダンディの地域劇場ダンディ・レップ・シアターがスコットランドのメディアを賑わした。同劇場が、スコットランド演劇批評家賞10部門中5部門を受賞したのである。この快挙が、劇場の先行きに立ち込めていた暗雲を吹き払った。

90年代末の隣国イングランドの景気好調と公的助成の増額が、市場を一つとする俳優組合の最低賃金を押し上げた。だが、スコットランドの経済も公的助成も - ここにスコットランド国立劇場設立の動きも絡むのだが - 低迷を続けていた。そんな折、「スコットランドではもはや演劇活動はできない」とダンディ・レップのカリスマ芸術監督ハミッシュ・グレンが辞任、コベントリー（イングランド）の地域劇場ベルグレード・シアターへと去った。グレンはスコットランド演劇界のリーダー的存在でもあり、彼の抗議の意を理解しても、演劇界にはどこか「スコットランドはもうだめなのか」という気持ちが残った。

カリスマ芸術監督の後任として、理事会が選んだのは、ともに35歳の二人の演出家である。2003年夏、TAGシアター・カンパニーの芸術監督を務めていたジェームス・ブライニングが「ダンディ・レップ・シアター」の芸術監督兼チーフ・エグゼクティブに、そしてグレン政権下のダンディ・レップでアソシエートとしていくつかの作品を演出し、イラン公演をも成功させていたドミニク・ヒルが「ダンディ・レップ・アンサンブル」の芸術監督に就任した。

この二人の若きリーダーと、彼らが新たに創り上げたチームが「どうしようもない」という「暗雲」を払拭したのである。

二つのレジデント・カンパニーとコミュニティ&エデュケーション

ダンディ・レップ・シアターはわずか452席のメインハウスのみを持つ小規模な地域劇場である。その特筆すべきユニークさは、英国がすでに失った「劇団

ダンディ・レップ in 「コルチャック先生の選択」

制（アンサンブル・カンパニー）」を、国営宝くじの収益の分配を得て、1999年に復活させたことにある。当初14名、現在8名の常勤の俳優がアンサンブル・カンパニーのメンバーとして、年間を通して、昼はリハーサル、夜は公演と、フル回転でスケジュールをこなす。芸術監督の一人ドミニク・ヒルの責任はこのアンサンブル・カンパニーにある。

同劇場にはもう一つ、「英国唯一」のレジデント・ダンス・カンパニーを持つ地域劇場としての顔がある。スコティッシュ・ダンス・シアター（SDT）は、スコットランドが世界に誇るコンテンポラリー・ダンス・カンパニーである。芸術監督ジャネット・スミスのもと、現在、8名の常勤ダンサーと、独自の事務局スタッフ（10名）を抱え、同劇場を拠点に英国全土、海外での活動を展開しているのである。

さらに、2004年夏、新セクション「コミュニティ&エデュケーション部」が誕生した。ダンディは昔からアマチュア演劇の盛んな土地であり、劇場とその「コミュニティ部」はアマチュア演劇の発表の場として、拠点としての機能を果たしてきた。高く評価されてきたが、やれるものだけの活動の場になってきたことは否めない。もっと広くコミュニティに働きかけていく努力に欠いた。新トップとなったブライニングは、真っ先にエデュケーション部の創設に取り組み、エディンバラのライシャム・シアターからスティーブン・スモールを引き抜き、エデュケーション担当としては破格の「アソシエート・ディレクター」に任命した。

この新セクションのすごさは、文化政策の語るアウトリーチにとどまらず、演劇そのものや組織の力を最大限に活用しながら、貧困と犯罪に苦しむ町としてのダンディに真っ向から、そして同時にクリエイティブに取り組み、人々のなかに入り、そして劇場へひっぱりこもうとしていることだ。公的助成の求め

る義務にとどまらないのは、多様な財源と、そのプログラムの重層性ゆえである。地域の拠点劇場がその存在感を高めるためには、いわゆる芸術の愛好家としてのクリエイティブ・クラスだけではなく、社会の底辺にも働きかけなくてはならないという信念が見えてくる。「いつかダンディ・レップで働きたい」と願うこと自体がすさんだ青少年を変え、町を変え、芸術を変えるきっかけになるかもしれないのである。

新しい劇場経営モデル

「ハコ」としての劇場経営と、二つのレジデント・カンパニー、新設のエデュケーション&コミュニティ部すべてを網羅して責任を担うのが、チーフ・エグゼクティブとしてのジェームス・ブライニングの仕事である。もちろん演出家でもあり、一人ですべてができるわけではない。同じくTAG出身のエグゼクティブ・ディレクターのローナ・ディグウィッドという強力な女房役を得て、まさに「これまで誰も経験してこなかった地域劇場経営」に挑んでいる。

その特徴は、トップマネジメントチームの再編成と、運営の民主化にある。ブライニングはよく「スーパーマン」はいるないと口にする。チームとしてクリエイティブなスーパーマンになることが成功なのである。そのために民主的な運営が不可欠であると考えたブライニングの改革は、SDT芸術監督スミスのかつては理事会に出席することも許されず、アンサンブル・カンパニーのかけで、SDTが忘れられがちでした。いまはきちんと扱ってもらえる」という言葉からも推測されてくる。一つのチームとしての認識は、これまで協働などありえなかったアンサンブル・カンパニーとSDTの共同公演の計画につながっている。

創造と運営の民主化はコインの裏表でもある。劇団制を失った英国演劇ではスター俳優でもない限り、一俳優が自分の思いや希望をプログラム化することはほとんど不可能なわけだが、ダンディ・レップでは芸術監督との密接な対話を通して、ひとりひとりのキャリア・ディベロップメントをも考慮したプログラム化と配役が行われている。さらに、若い才能のキャリア・ディベロップメントも進められている。民間財団の助成を得て、毎年男女1名ずつの演劇学校卒業生を常勤の俳優研修生として雇用し、ダンディ・レップの全公演に - ときに大役を得ながら - 出演している。かつて劇団制を維持していた地域劇場は、演劇学校卒業生たちの大学院と呼ばれたことがあるが、その伝統がささやかながらここに生かされている。

ダンディ・レップと「コルチャック先生の選択」

初の日本公演に際し、ブライニングが『コルチャック先生の選択』を決定した背景には、インタビューで答えた他にも(3頁) 少なくとも二つの意図がある。一つは、地域劇場を担う芸術監督が、「教育は重要だ」と口にするのはあっても、自ら学校公演や青少年を対象とする公演を演出することはまずない。メインストリームと青少年演劇を暗に差別する演劇界に対するブライニング流の挑発だが、その垣根をひらりと飛び越えてみせた。もう一つは、これとも若干絡む問題なのだが、同劇場がこれまで一度もやってこなかった学校巡演に踏み切る契機を探していたからである。俳優たちには少しばかり晴天の霹靂かもしれないが、劇場ははじめてダンディ市内の学校を巡演するための助成金をダンディ市教育部局から獲得した。もちろん、一般向けにメインハウスでも上演は行われるが、学校を巡演する。学校で上演されない限り、財政的、地理的、そして家庭的に、見られる子どもと見られない子どもという格差が生じてしまうからである。さらに、ブライニングの持論だが、子どもは「未来の観客」ではなく、大切な「現在の観客」なのである。いうまでもなく、スモール率いるエデュケーション&コミュニティ部が、この公演にあわせて、重層的なエデュケーション活動を展開することになる。

ダンディ市は、いま荒んだ町という80年代のイメージを払拭し、産業転換をも踏まえた果敢な文化政策に挑んでいる。ダンディ・レップも、その「カルチュラル・クォーター」の中心的存在として一翼を担う。しかし、文化産業や都市計画を主眼においた政策は、強いものをさらに強くするものであっても、弱いものが取り残されてしまいがちなのも事実である。三世代に継承される失業、ドラッグ汚染、青年の高い自殺率、10代の妊娠率、高い精神病罹患率...といったいくつもの英国、ときにヨーロッパNO. 1で語られるダンディの悪名は、表面的なイメージ・アップで返上できるものではない。演劇は万能ではないし、しかも財政状況はいつも困難に直面している。それでも、地域の拠点劇場ができることは何なのか。質の高い芸術創造とコミュニティ活動の適切なバランスはどこにあり、多様性を守りながらいかに一体化していくのか。誰も答えられないし、また答えのないのが劇場運営の醍醐味でもあるのだが、ブライニング率いるダンディ・レップ120名の「チーム」が、新しい地域劇場のあり方を模索しながらめざすのは、自分たちの殻を破ってこそ生まれる「新たな公共性」ということなのかもしれない。(中山夏織)



ジェームス・ブライニング

演出家
ダンディ・レップ芸術監督
兼チーフ・エグゼクティブ



Q 今回「コルチャック先生の選択」を選んだ理由を聞かせてください。「若者たち」「独裁政治」「すさまじい状況の中で人々に迫られる選択」についてよく描かれていて、作品がすばらしいのはもちろんですが、ツアーに適したサイズだからでもあります。また人形の使用など、演劇的に興味深い作品ですね。そしてダンディ・レップ(以下レップ)がこの作品を選んだという事に意味があり、必然的な選択なのです。なぜならば、もっと若い観客や子供たちにも見てもらえるプログラム作りを心がける必要があるからです。

Q この戯曲が持つ普遍的なテーマについて聞かせてください。「圧力への抵抗」は力強いテーマです。芝居の中で「無抵抗による抵抗」という考え方が出てきます。「抵抗」とは対極にある考え方で、コルチャック先生が示した抵抗のあり方です。一方、アジオという若者は戦いを表明し、ナイフを盗んで抵抗します。犠牲になる以外に道が残されていないからです。このように違ったアプローチの「抵抗」がある。興味深いのは、この2つの真ん中に位置するステファニーの存在です。彼女はコルチャック先生によって教育を施され、先生を信じています。しかし、彼女は次第に現実と直面していく。彼女の変化を私たちは考えなくてはならない。

そして、「子供たちをどう育てるべきか」というテーマ。コルチャック先生は民主的な教育システム・民主的な子供たちの生活スタイルをつくろうと試みました。この背景は、次のような質問を考える機会を与えるのです。「民主主義とは何か?」「子供たちとどのように向き合うべきか?」「どこまで現実を子供たちに伝えるか?」「子供たちの権利とは何か?」といったことです。

Q こういった考え方はどの程度達成されているのでしょうか?

コルチャック先生の理想は国連児童憲章の基になっていますが、実際はまだまだ遠い。「どのような教育がもっとも適しているのか?」「豊かな教育の環境とは何か?」といった質問がのぼってきます。現実的に考えると、難しい状況がたくさんありますよね。例えば、宗教の自由ということについて言えば、フランスのある学校でターバンの着用が禁止され問題になりました。この問題も非常に複雑なのです。このような問題をつねに探求し続けるという姿勢が大切だと思います。

コルチャック先生の教育について興味深い点は、子供たちに責任を与えたことです。また子供たちは選択肢が与えられていた。選択とは意思がないとできませんからね。ただ、私は子供たちに「完璧な自由」を与えるのは少し違うと考えています。これが最も理想的な形であるとは思えません。「子供たちの自由」と「教育」の間には、あるパラドックスが存在しているのです。

Q TAGシアター・カンパニーでの初演のことを教えてください。

初演は、11歳から15歳の青少年たちのために学校で上演されました。1999年のスコットランドの国会の設立に伴っての「メイキング・ザ・ネイション-僕らの国を創る」という3年越しのプロジェクトの一環です。「民主主義、政治、政府」というテーマをもとに、2年目のプログラムとして、コルチャック先生が書いた児童文学を劇化した「少年王マット」とともにレパートリーで上演しました。エディンバラ演劇祭でも上演されました。再演の際には、トラバース・シアターや、LIFT(London International Festival of Theatre)にも招待され、大人の観客を対象としました。

Q この芝居の見所はどんなところだと思いますか

青少年たちがこの芝居を見る上での大きなポイントは、アジオとステファニーです。ともにすさまじい状況下にいるわけですね。青少年たちは二人を通して、より作品の中に引き込まれ、考えるわけです。「自分だったら、どうする?」「どの選択肢を選ぶか?」「大切なものはいったい何なのか?」ってね。

一方、コルチャック先生は、むしろ大人の観客が思考するための登場人物と言えます。私が観客だったら、よりコルチャックの視点から作品を見たいと思います。「ステファニーに何を伝えるべきか」「どのようにアジオに真実を伝えるか?」といったことを考えながらね。





★ Jews being arrested at end of Warsaw Ghetto uprising.

この作品は、根本的な問いかけとともに、観客がいくつであろうと誰であろうと受け入れられるすばらしい作品です。たくさんの悲劇が起きますが、これは「こんなひどいことが実際に起こっていた」という描写だけではなく、「どのようにしてこのような悲劇が生まれたのか？」「このような状況下で私たちはいったい何ができるか？」といったことまで描いています。たしかに実際に起こったことなのです。この作品がすばらしい点は部分的にフィクションでありながらも、実話を基にして書いているところなのです。

この恐ろしい状況を青少年に伝えるのは、決して容易な作業ではありません。この芝居の初日は、2001年9月11日でした。ニューヨークのツインタワー爆破が起きた日です。公演後、私は学校からの帰り道を車で走っていました。ラジオからその信じられないニュースが飛び込んできたことを今でもはっきりと覚えています。そして、事件の1週間後、芝居を見た青少年たちがアメリカやニューヨークの状況についてレスポンスをくれたのです。

芝居が、ニューヨークで起きたような出来事と関係性を持っていくのは非常に難しいことです。私は何も「コルチャック先生の選択」はこのような出来事を伝えるための叙事的な影響力を持っていると言うつもりはありません。ただ私たちにとって、これは実際にゲットーで起こった出来事と観客を結びつける唯一の方法なのです。確かに、この芝居は小さな「劇場」という空間の中で行われる一作品です。しかしながら、実際に起きたことなのです。

Q 例えば、民族紛争などで、子供たちが兵士に志願し、ゲリラ活動を展開していたりもします。そのような現代的なつながりも意識されているのですか？

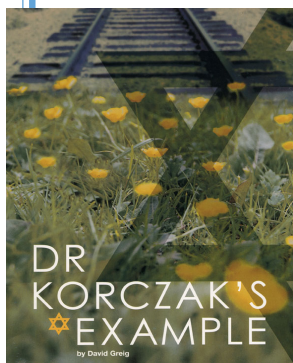
•@そうです。だから、この作品は教育プログラムにもなりうる作品なのです。この作品に描かれている出来事は、60年前に起きたことです。多くの若者たちにとっては、コルチャック先生のような「無抵抗による抵抗」より「闘うこと」が大切だった。彼らのほとんどは殺されてしまったわけですが、

私が興味深い点は、大人たちが運命を受け入れざるを得なくなる一方で、若者たちは闘うことで成長していくことです。しかし、これはどちらの「抵抗」がより正しいかと言うことではありません。それに答えを出すのは不可能です。このようなヒューマニティーのある芝居が、単純な答えを観客に提供するわけでもありません。観客自身がそれぞれの答えを見つけるのです。



★ Two Jewish children begging in Warsaw Ghetto.

(インタビュー / 赤尾友樹)



コルチャック先生の選択

Dr. Korczak's Example by David Greig

1942年夏、ワルシャワ。ユダヤ人が強制的に住まわされたゲットー「ユダヤ人特別居住区」。16歳の孤児アジオは、わずか2本のにんじんを盗んだ罪で警察官に銃を突きつけられていた。抵抗するアジオは、コルチャック博士に救われ、博士の営む孤児院で暮らし始める。そこには博士の理想のもと、ひとりひとりの子どもの自主性と意見が重視され、問題が起これば自分たちの法廷で自分たちで裁く、子どもたちの民主的なコミュニティがあった。しかしながら、博士の理想に基づく数々の実践は、ことごとく反抗するアジオの現実主義やや、狂気の度を増すナチスらによって試され踏みにじられていく。博士を深く尊敬しながら、もう一人の孤児ステファニーは、アジオの闘いの意思にも心動かされていく。ついに、すべてのユダヤ人の移送が始まる。博士は自分に差し伸べられた救済を無視し、子どもたちとともに歌いながら最後の行進を行った。静かに、力強く、人間の尊厳と抗議をこめて。一方、アジオとステファニーは一斉搜索を逃れ、闘うべくゲットーの地下へと潜っていく…。

「弾圧に対する抵抗」、「コミュニティの意味」、「子どもの人権」をテーマとして、国際的に活躍するスコットランドの若手劇作家ディヴィッド・グレイグが、コルチャック博士の史実をプレヒト的手法を駆使して脚色した佳作。人間愛と残忍性、狂気、人間の無力さが、俳優と人形の効果的なコラボレーションから描かれる。

Dr. Korczak's Example

『コルチャック先生の選択』

ディヴィッド・グレイグ

劇作家

ジョン・ブイック

コルチャック先生



1968年、王立スコットランド音楽演劇学校卒。スコットランドでは出演したことのない劇場はほとんどないベテラン俳優。イングランドでも、ヤングヴィックやバーミンガム、ヨークなどの地域劇場で活躍。ダンディ・レップでは、『夏の夜の夢』『キャバレー』『冬物語』『かもめ』『十二夜』『フローラ・ザ・レッド・メナス』『ピーター・パン』『マクベス』『ダムストラック』他、多数に出演。シェークスピアの古典からミュージカル、コメディまでをこなすダンディ・レップの演技派。

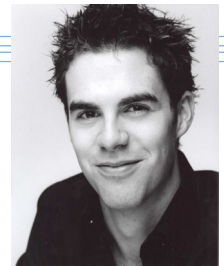
1969年スコットランド生まれ。子どもの頃ナイジェリアで過ごす。ブリストル大学で英文学と演劇を学び、1990年、劇団サスペクトカルチャーを設立。1992年、劇作家デビュー以来、同劇団のみならず、数多くの劇場や劇団に対して新作戯曲を書き下ろすとともに、古典作品の翻案や翻訳、共同演出や、国際共同製作に関与。2005年1月、英国初のドラマツルグとして新設のスコットランド国立劇場に参加。劇作家の賞を総なめにしてきた、今最も売れっ子の劇作家。

主な作品

『TIN TIN』(2005 翻案、ヤングヴィック) / 『ユビュ王』(2005 翻訳、ダンディ・レップ & ヤングヴィック) / 『アメリカン・パイロット』(2005、RSC) / 『ピレニーズ』(2005、ペインズプロウ & トロン) TMA 新作戯曲賞 / 『8000m』(2004、サスペクトカルチャー) / 『サンディエゴ』(2003、トロン & ライシャム) / 『カリキュラ』(2003 翻訳、ドンマーウエアハウス) / 『辺境の島々』(2002、トラバース、スコットランド演劇批評家賞) / 『ヴィクトリア』(2000、RSC) / 『旧ソビエト連邦でかつて愛した女性への宇宙飛行士の最後のメッセージ』(1999、ペインズプロウ、ジョン・ウィッティング賞) / 『アーキテクト』(1996、トラバース) 他、多数。

イオニア・ニ・クロイニン
ステファニー

アイルランド生まれ。2005年、王立スコットランド音楽演劇学校卒。ダンディ・レップの『シンデレラ』のタイトルロールでプロ・デビュー。演劇学校では『イヴァーノフ』『アンナ・ペトロヴィナ』『ハムレット』オフィーリア、『かもめ』のマーシャ他を演じている。

ポール・ボイド
アジオ

クィーン・マーガレット・カレッジ大学卒。在学中から学内公演のみならず、プロとしてボイラーハウス・シアター・カンパニーやシアター・スラバなどで活躍。卒業後は、グラスゴー・レパートリー・カンパニーで『ロミオとジュリエット』のロミオ、『十二夜』のセバスチャンを演じたほか、BBCや民放のドラマにも出演。

ジェームス・ブライニング

演出家

1968年リーズ生まれ。ケンブリッジ大学卒。プロテウス・シアター・カンパニー芸術監督、オレンジツリー・シアターのコミュニティ・ディレクターを経て、1997年からTAGシアター・カンパニー芸術監督。20作品以上を演出するとともに、スコットランド独立に際しての4年間にわたる一大演劇プロジェクト「僕らの国を創る」を指揮、日本、デンマーク、ギリシャ、イタリアでもプロジェクトに挑んだ。2003年6月より、ダンディ・レップ芸術監督兼チーフ・エグゼクティブ。

BBCスコットランドのラジオドラマ、ロンドンのサウスバンクセンターのオペラ、大規模コミュニティ・プレイなどの演出の経験もある。

スコットランド演劇協議会副議長、プレイライト・スチューディオ・スコットランド理事など要職を務めるほか、レクチャーなど多数。スコットランド演劇界の若きリーダーである。

ダンディ・レップでの主な演出作品に、『シンデレラ』『ジブシー』『ライ・オブ・ザ・マインド』『フローラ・ザ・レッド・メナス』他。

カレン・テナント
美術

エディンバラ美術学校卒。長年にわたり、フリーランス・デザイナーとして小規模な児童青少年演劇から地域劇場、RSC、さらに大規模なプロジェクトにまで関わってきた。そのツアーは合衆国、カナダ、エジプト、トルコ、ニュージーランドにも及ぶ。主な作品として、『スノー・ベイビー』『幸せの王子』『コーカサスの白墨の輪』『セチュアンの善人』『ある女性の肖像』『モビー・ディック』他、多数。

授業やコミュニティで活用のためのドラマ・エキササイズ

「コルチャック先生の選択」のエデュケーション・パックから

セクションA

3つのグループに分け、次のキャラクターを各グループに割り当ててください。

- 1 ナチス親衛隊
- 2 ホロコーストの生存者
- 3 ドキュメンタリー番組の製作者

グループ全員で、割り当てられたキャラクターや当時の戦争についてアイデアを出し合います。

グループ1と2に適切な質問

- ・ あなたは当時いくつでしたか？
- ・ あなたはこの戦時中どこにいましたか？
- ・ 戦時中に起きた出来事で、一番よかったこと / 最悪なことは何でしたか？
- ・ 申し訳ないと思うことはありましたか？
- ・ あなたの家族はあなたの戦争体験をどのくらい知っていますか？

グループ3に適切な質問

- ・ なぜあなたはこのドキュメンタリー番組を作るのですか？
- ・ あなたの家族は戦争を経験したことがありますか？
- ・ 戦争で役割を果たしたどこかの場所に行ったことがありますか？
- ・ この戦争についてのあなたの個人的な意見を聞かせてください

セクションB

アイデアがまとまったら、イスを半円状に並べ、グループ1が座ります。残り2グループは、その半円に向かってもうひと回り大きい半円を作ります。二つの半円の中間地点に、イスをひとつ大きな半円のほうに向けて置きます。コートをかけるか、クツを二足イスの下に置いてください。このイスはグループ1のキャラクターを表します。次のイメージ写真を活用します。

- ・ ユダヤ人のパスポート（写真1）
- ・ ダビデの星の描かれた腕章を売る老女（写真2）
- ・ アウシュビッツの入り口（写真3）
- ・ ヒトラー（写真4）

グループ1にカードを渡して、そのキャラクターが写真を見てどう思うかなどを、グループ1に質問します。グループ2や3からナチス親衛隊のキャラクターに関する質問を受けても可。グループ1は全員で答えても、一人ずつ答えさせてもかまいません。次に、グループ1に行ったことをグループ2や3にも同じように指示します。

ナチス親衛隊への質問

イメージ写真1

- ・ あなたは戦争の前、ユダヤ人の友達がい了吗か？
- ・ 逃亡を助けるために、にせ物のパスポートを見逃してあげますか？
- ・ もしあなたが国によって定められたミドルネームを持たなければいけなかったら、どう感じますか？

イメージ写真2

- ・ ユダヤ人はどのような理由でこの腕章の着用を義務づけられているのですか？
- ・ 何回ゲットーに行って、このような光景を見ましたか？
- ・ この女性は何歳ぐらいだと思いますか？
- ・ 戦争中、あなたの祖母は何をしていましたか？

イメージ写真3

- ・ アウシュビッツや収容所に一度でも入ったことがありますか？
- ・ このような収容所の中の様子を説明してください。
- ・ なぜヒトラーは1943年に「死のキャンプ」に関するすべての証拠を隠滅したのですか？
- ・ このような収容所でどれくらいのユダヤ人が死んだと思いますか？



Jewish passport with obligatory 'J' and obligatory middle name 'Sara'.

イメージ写真1

イメージ写真4

- ・ ヒトラーに会ったことがありますか？
- ・ ユダヤ人への彼の政策に賛成していましたか？
- ・ 彼はナチス親衛隊のメンバーにどう思われていましたか？
- ・ あなたは彼のリーダーシップのとり方をどう思いますか？
- ・ 彼が自殺したと聞いたとき、どう感じましたか？

イメージ写真2と3



Jewish woman selling obligatory Star of David armbands in Warsaw Ghetto.

ホロコースト生存者への質問

イメージ写真1

- ・ あなたのパスポートに押された「J」のスタンプをどう思いますか？
- ・ 戦前のあなたのミドルネームはなんでしたか？
- ・ 戦時中ずっとあなたはパスポートを所有していましたか？
- ・ そうでなければ、誰かによって取り上げられたのですか？

イメージ写真1&2

- ・ このような腕章を身につけていたことを今でも覚えていますか？
- ・ 着用を拒絶した人を知っていますか？
- ・ 着用を拒絶するとどうなりましたか？
- ・ ドイツ人はあなたの腕章を見て、どのようなリアクションをしましたか？
- ・ どの程度女性はこの腕章を売ることができましたか？



Entrance to Auschwitz concentration camp.

イメージ写真3

- ・ あなたが初めてこの場所を見たときどう感じたか説明してください。
- ・ 今はこの場所をどう思いますか？
- ・ この収容所までの旅路を説明してください。
- ・ 収容所に行く前に、この場所に行く事を説明されましたか？もしくはそれは聞いた場所とは違う所でしたか？
- ・ どのようにして生き残ったのですか？
- ・ 戦争が終わってから、ここを再び訪れましたか？

イメージ写真4

- ・ ヒトラーをどう思いますか？
- ・ この男に一言、何か言いたいことがありますか？

ドキュメンタリー製作者への質問

イメージ写真1

- ・ このパスポートは、どのようなヒトラーのユダヤ人に対する対処を教えますか？
- ・ このドキュメンタリー番組で、この写真1を使用する目的は何ですか？

イメージ写真2

- ・ このような写真からあなたはどのような情報を得ることができますか？
- ・ この女性が写っているような場所を見るためにワルシャワに行きましたか？

イメージ写真3

- ・ これは戦争の最もおぞましい写真のひとつです。なぜだか説明できますか？
- ・ あなたの番組では収容所の状況をどれくらい詳細に描きますか？
- ・ アウシュビッツを訪れたことがありますか？
- ・ どんな雰囲気でしたか？

イメージ写真4

- ・ 個人的に彼をどう思いますか？
- ・ 彼の自殺行為をどう思いますか？
- ・ 番組で彼をどう描写しますか？
- ・ ヒトラーと比較できる近代・現代社会のリーダーはいますか？



Adolf Hitler.

イメージ写真4

セクションC

別のグループの人とペアになり、一人はインタヴューアとして質問し、もう一人は自分のグループのキャラクターとしてインタヴューに答えます。その後、インタヴューについて全体でディスカッションします。キャラクターがイメージ写真を見た際の反応について作文を書くこともできるでしょう。

横濱世界演劇祭2006海外招聘作品公演スケジュール

『コルチャック先生の選択』 by Dundee Rep. (Scotland)

会場： 横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
日程： 2月24日(金) 19:00
2月25日(土) 14:00 & 19:00
2月26日(日) 13:00 & 17:00
入場券： 前売3,500円 当日4,000円 (全指定席)

『汽車』 by 劇団超人 (Korea)

会場： 神奈川県青少年センターホール
日程： 3月4日(土) 14:00 & 19:00
3月5日(日) 13:00
入場券： (指定) 前売3,500円 当日4,000円
(自由) 前売3,000円 当日3,500円

『ディッター DITTO ~ であい~』 by Teatret (Denmark)

会場： 横浜赤レンガ倉庫1号館ホール
日程： 3月3日(金) 14:00 & 19:00
3月4日(土) 14:00 & 19:00
3月5日(日) 13:00 & 17:00
入場券： 前売3,500円 当日4,000円 (全指定席)

お問合せ&お申込み

横濱世界演劇祭チケットセンター
Phone & Fax 045-243-9050
受付専用携帯 090-1545-3636
E-mail info@yitf.jp

特定非営利活動法人

シアタープランニングネットワーク
国際化時代の多様な文化という視点
に立ち、舞台芸術関連の様々な職業
のためのセミナーやワークショップ
をはじめ、調査研究、情報サービス、
コンサルティングなど、舞台芸術に
かかるインフラストラクチャー確立
をめざすヒューマン・ネットワーク
です。国際的な視野から、舞台芸術と
社会との関係性の強化、舞台芸術関
連職業のトレーニングの理念構築と
その具現化、文化政策・アートマネジ
メントにかかる情報の共有化、そし
てメインストリームシアターとコ
ミュニティシアターの相互リンク
を目的としています。

2000年12月6日、東京都よりNPO
法人として認証され、12月11日、正
式に設立されました。

Theatre & Policy

シアター & ポリシー

シアタープランニングネットワー
クの基幹事業として、2000年6月か
ら定期発行(隔月間・年6回)されてい
ます。定期購読をご希望の方は、シア
タープランニングネットワークの準
会員としてご参加下さい。
年会費3千円(送料込み)を下記まで
ご送金下さい。尚、送金の際は、ご住
所・氏名・電話番号を忘れずにご記入
くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

2005年も早や行き過ぎようとしています。戦後60年、その意味を改めて考えざるを得なくなる事件や問題が世界各国、そして日本で生じています。私が「コルチャック先生の選択」を最初に見たのは、2001年11月のはじめ、グラスゴー市内の中学校でした。「コルチャック先生」というと、少しばかり感傷的に描かれることが多いような気がするのですが、コンベンションとは違うテーマを設定し、その大きなテーマを「繊細」に、「イマジナティブ」に描いたこの作品に心打たれました。2003年の再演の際には、リハーサルにお邪魔しました。「コルチャックの生き方って武士道に近い」。黒澤明のこよなきファンのコルチャック俳優はものすごく喜んでいたので昨日のようです。

横濱世界演劇祭2006の舞台で、新しいキャストでどのような新しい「コルチャック先生の選択」が再創造されるのが楽しみです。また、横浜のあと、広島へのツアーも予定されています。被爆の地広島で、「コルチャック先生の選択」はどのようにうけとめられるのでしょうか。また、ダンディ・レップのこのカンパニーにとって、広島での経験がダンディでの学校公演に大きな影響を及ぼすのではないかと感じています。

横濱世界演劇祭2006には、韓国とデンマークから劇団超人「汽車」、テアトレット「ディッター~であい~」が招聘されます。この二つの作品に共通するのが人間愛をユーモラスに描いていること、そして台詞を一切使わない「マイム」だということです。

招聘三作品とも、派手さはありませんが、どこか心洗われる作品です。「違いを越えて」をテーマに開催される演劇祭のたしかな骨格になる公演であると自負しております。横浜でお目にかかれますことを。よいお年をお迎え下さい(中山夏織)

郵便振替口座

00190-0-191663

加入者名

シアタープランニングネットワーク